

新水銀驅黴劑「イマミコール」ノ副作用ニ就テ

岡山醫學士 田邊 郁 郎

一、緒論

驅黴劑トシテ世ニ出ルモノ、汗牛充棟モ番ナラズシテ、其效果亦多般ナリ。就中、黴毒ト共ニ古キ歴史ヲ有シ、今日尙ホ聲價ヲ失墜スルコトナク、驅黴上最後ノ勝利者トシテ賞用セラル、モノハ實ニ水銀劑ナリ。

汞劑中臨牀家ノ好ンデ使用スルモノ亦夥多ナリト雖、常ニ吾人ヲシテ満足セシムルモノ尠シ。予惟ヘラク、汞劑ニ對スル開業醫トシテノ要求ハ

- 一、短期間内ニ個體ヲシテ水銀ニ飽和セシメ得ルコト。
- 二、驅黴中、血液内ニ浮游セル水銀量ガ常ニ中毒閾下ニ於テ、可成大量ニ且濃度均等ニ持セラル、コト。
- 三、副作用ナキコト。
- 四、使用法ノ簡易ナルコト。
- 五、價格低廉ナルコト。

按ズルニ、使用法簡易ニシテ奏效迅速ナルハ注射法ニ如クモノナシ。サレドモ、注射法ハ血液中ノ濃度均等ナル條件ヲ充サズ、殊ニ筋肉内注射ニアリテハ局所疼痛、硬結ノ外、筋間ニ貯溜セラレタル藥液ノ噸ニ吸取セラレテ不慮ノ急性中毒ヲ醸スコトナキニ非ズ。塗擦法ハ最モ安全ニシテ奏效確實、且價格低廉ナレドモ、其「クール」長クシテ用法冗繁ナルヲ奈何セン。然リ而シテ、醫俗共ニ忌避スベキハ實ニ副作用ナリ。

予ハ近時千葉ニ於ケル伊東博士、松崎學士等ニヨリテ創製セラレタル水銀驅黴劑「イマミコール」ヲ使用シ、用法簡易、價格低廉、「クール」比較的短ク奏效迅速ナルニ感謝セリ。然ルニ偶々過激ナル一異副作用ヲ經驗シタルヲ以

テ、茲ニ聊カ記セントス。

二、副作用概論

「イマミコール」ノ副作用トシテ創製者ノ發表スル所ヲ見ルニ、本劑ハ病原體或ハ細胞各箇ニ及ボズ作用ハ其用量如何ニ關シ、比較的少量ナレバ形成的刺戟トナリ、多量ナル場合ハ破壊的刺戟ヲナスモノニシテ、對臟器性毒力ハ比較的輕度ニシテ、對寄生性毒力強大ナルハ本劑ノ特點ナリ。副作用ハ一部ハ個人ノ特異質ニヨリ又用量ニモ關ス。特異質ニ關シテハ二種ヲ區別ス、其甲ハ所謂狹義ノ特異質ニシテ、其乙ハ一時性トモ稱スベク、本劑ノ使用量ヲ加減シ、或ハ特ニ加減セザルモ次第ニ不過敏性トナリ、反テ習慣性ヲ得或ハ水銀抗性ヲ得テ、爾後本劑ニ反應セザルニ至ルモノナリ。而シテ副作用トシテハ

一、局所の作用。(イ)注射部ノ疼痛。各個人ニヨリ又注射法ノ巧拙ニヨリテ異リ、輕微ナルモノヲモ算入シテ約五〇%ヲ示セドモ、起坐、歩行ニ困難ヲ訴フルガ如キ高度ノモノハ殆ド絶無ナリ。

(ロ)局所ノ硬結。多クノ場合發見セズ。

右兩者ノ外局所の副作用ト見ルベキモノナシ。

二、全身症狀。(イ)熱發。第三期微毒ヨリモ第二期潜伏性微毒ニ多シ。其程度ハ種々ナルモ重症例ヲ示セバ、注射後罹病感ヲ訴へ、數時間ニシテ三十八度五分乃至四十度ニ達シ、一日乃至二日稽留後多クハ分利的ニ下熱ス。

(ロ)皮疹。發熱前又ハソレト共ニ全身ニ紅斑或ハ蕁麻疹ヲ發スルコトアリ。紫斑ハ之ヲ見ズ。

(ハ)口内炎、下利、腹痛、蛋白尿、腎臟炎等ヲ見ズ。コレ本劑ノ特點ナリ。(以上治療藥報第一三八、一五一號抄録)

ト。然ルニ、本劑試用者ノ文獻ニ徵スルニ、局所疼痛ハ最モ多ク、發熱必ズシモ稀ナラズ。而シテ頭痛亦比較的屢々ナリ、其他全身倦怠、或ハ不快感、欠伸、戰慄、惡寒、眩暈等ヲ發セシモアリ。而シテ予ガ少數ナル實驗ニヨ

レバ

田邊「新水銀驅黴劑」イマミコルルノ副作用ニ就テ

八八四

一、局所の。(イ)疼痛。未ダ皮下注射ハ行ハズ。臀筋肉注射ニ於テ、固ヨリ神經經過ヲ避ケグロス氏三角部ニコレヲ行フト雖、其殆ド全數ニ於テ、局所ニ鈍痛乃至牽引様疼痛ヲ訴へ、甚シキハ起坐、歩行ニ障碍アリ。ナレバ皮下注射ハ到底不可能ナリ。

(ロ)局部の硬結。之ヲ認メタルコトナシ。
二、全身的。(イ)熱發。稀ニ來スコトアリ。サレトモ同一人ニテ、用量同一ナリト雖發熱スルコトアリ又全クセザルアリ。

(ロ)皮疹其他ヲ見ズ。次例ノ如ク全身ニ激烈ナル疼痛ヲ來セルアリ。

三、病例

岡○縣淺○郡里○村 T、T、(男性)二十一年。

既往症。

生來健康著患ナレ。昨春ヨリ大阪地方ニ出稼中黴毒ニ感染シタルモ、姑息の療法ニヨリテ諸症消退セリ。

本年四月中、心悸亢進、下肢倦怠ノ感アリ、脚氣ニ診定サレ、醫治ヲ受ケシモ諸症減退セズ。ヨリテ郷歸シ予ガ許ニ來ル。下肢ノ麻痺感、心悸亢進ヲ主訴ス。傾通一日一行、食慾可良ナリ。

現症。大正七年五月十八日診。

體格營養可良。體溫三十六度六分、脈九十至、起立、坐位ニ於テ脈數ニ變化ナシ。側頸、項部肘高、兩風溪淋巴腺ハ腫脹シ、硬、境界明カニシテ無痛性、豌豆乃至蠶豆大ナリ。

舌、咽頭、口蓋、鼻腔等ニ異常ナシ。皮膚ニ異狀ナク、浮腫ヲ認メズ。

心臟ヲ見ルニ、境界ハ通常、心尖搏動ハ稍廣ク且強盛シ、聽診上心音亢進セリ。胸骨左緣ニ沿ヒテ第二音強盛ナリ。

腱反射ハ、「アヒレス」腱反射ハ兩側共ニ消失、膝蓋反射ハ左側ニ於テ消失シ、右側ハ稍亢進ヲ示ス。指趾尖部ニ「パレステジイ」アリ。下腿前面部ニ觸感及痛感稍減退セルヲ見ル。

消化系ニ於テ、胃ハ空腹時ニ輕度ノ振水音ヲ證明スル外著變ナシ。

其他臟器ニ異常ナシ。肛門ニ二三ノ小痔核アリ。ワッセルマン氏反應、陽性。

診斷。初期脚氣竝ニ潜伏性黴毒。

經過竝ニ處置。

安靜ヲ示シ、便通ヲ整理シ、對症療法ヲ加フ。黴毒ニ對シテハ脚氣ノ輕快ヲ待チテ驅黴法ヲ行フト約ス。

六月十二日。脉數減少、七十五至ヲ算シ、體動ニヨリ心悸兀進ヲ訴ヘズ。諸症亦相連レテ輕快セリ。

六月二十四日。昨日散步(步行約一里半)後入浴シタルニ、肛門部ノ疼痛ニ場ヘ難シト云フ。接診スルニ、肛門皸裂ノ外輪ヲ割レテ扁平「コンザローム」ノ發生セルヲ見ル。ヨリテ驅敏法ノ必要切迫セル旨ヲ宣シ、不取扱「イマミコール」ヲ注射ナナス。即チ式ノ如ク「イマミコール」五立方糎ヲ右側肘靜脈ニ注入ス。患者ハ注射後暫時右上臍ノ倦怠感アリト訴フ。(蓋シコハ神經性ノモノカ、當ニ本劑ノミニ限ラズ)。其後何等ノ副作用ナシ。内服藥トシテ沃刺ニ硫苦ヲ配伍シテ投與シ、局部ニ「カロメル」ヲ撒布セシム。

六月二十五日。肛門疼痛著シク輕快セ、滿悅ノ意ヲ表ス。「コンザローム」ヲ診ルニ、大ニ縮小シ、且稍乾燥セリ。

六月二十八日。「イマミコール」二〇立方糎ヲ左肘靜脈ニ注入、副作用ナシ。

六月三十日。本劑ノ二〇立方糎ヲ右肘靜脈ニ注入、何等認ムベキ副作用ナシ。

七月二日。「イマミコール」二〇立方糎ヲ左肘靜脈ニ注入、副作用ナシ。「コンザローム」ハ全ク其跡ヲ絶チ、患者ハ奏效ノ迅速ナルヲ喜ブ。

七月四日。「イマミコール」一〇立方糎ヲ右肘靜脈ニ注入ス。便通今朝一回稍軟、身體ニハ何等異常ヲ認メザリシガ、同夜半惡寒ヲ以テ發熱、二十九度三分ニ及ビ、頭痛甚シト云フ。他覺的ニハ熱ノ外何等異常ナシ。「アスピリン」一〇五ヲ投ズ。

七月五日。今朝ハ熱全ク去リテ、氣分衰カナリ。

七月十日。前回發熱セシヲ以テ、約一週間注射ヲ休止ス。身體ニ異常ナシ。便通ハ一日一行時ニシテ硬度稍軟ナリ。ヨリテ再ビ注射ヲ始メ、「イマミコール」一〇立方糎ヲ左肘靜脈内ニ注入ス。

午後二時頃注射後約三時間ニシテ不快感、眩暈、全身倦怠アリトテ診ヲ乞フ。直ニ往診スルニ此時早ク患者ハ全身劇甚ナル疼痛ヲ訴ヘ、鈍刀、銳錐、斧鍬ヲ以テ斬リ、刺シ、抉リ、寸斷挫碎サル、ガ如シトテ、七轉八倒、苦悶懊惱殆ド名狀スベクモアラズ其場ニ悶絶センズ光景實ニ慘憺タルモノアリ。患者ハ固ヨリ其近親ヨリ急訴要望ヲシ。接診スルニ、發熱、惡寒ナシ、脉搏弱ク整調、九十至ヲ算ス。全身殊ニ上臍、大胸筋、上腿ノ筋肉部ニ疼痛アリ。他覺的ニハ痙攣乃至強直ヲ認メズ。ヨリテ不取扱

方一、硫酸「マゲネシヤ」 一〇〇
右多量ノ水ト共ニ頓服

方二、「サリチール」酸曹達 一〇〇
「カンフル」 〇〇一五

右頓服
ヲ投ジテ經過ヲ見ル。此際鎮痛藥トシテ鹽酸「モルヒネ」ハ心臓ノ狀態ヲ察シ、且疼痛ノ經過ヲ見ルタメニ見合ハス。

午後三時頃再診スルニ、諸症ハ増惡スルノミ。午後四時頃惡寒ヲ以テ發熱四十度五分、脉搏百四十至、微弱、整調。全身ニ互リテ「シヤラツハ」様發赤ヲ呈ス。ヨリテ

田邊「新水銀驅蝨劑」イマミコールノ副作用ニ就テ

八八六

方三、抱水「クローラル」

一・五

「ザギタミン」

一・〇

「メンタ」水

二・〇

「アラビヤム」漿

三・〇

右頓服

午後六時接診スルニ、熱發同前、少時睡眠アリ輕ク發汗後疼痛稍輕快再生ノ感アリト述ブ。檢尿スルニ異常ナシ。ヨリテ前方(二)、(三)ノ頓服ヲ投與ス。

七月十一日。昨夜十二時頃ヨリ疼痛殆ト止ミテ今曉ニ至ルマテ熟睡セリ。食慾皆無、便通ナシ。脉搏八十至、稍緊張、體溫三十七度六分、全身

四、考案

文獻ニ徴スルニ、「イマミコール」ノ副作用トシテ全身筋肉系ノ劇痛ヲ發セシモノ未ダ一例ヲモ見ズ。其因リテ來ル所ハ抑モ那邊ニ存スルヤ、之茲ニ推敲セントスル所以ナリ。是ニ對シテ吾人ハ次ノ可能條件ヲ想像シ得ベシ。

メルクグリアマヒコイト

一、患者ノ身體ノ狀況。

二、製藥乃至包裝上ノ缺陷。

三、注射ノ方法。

四、水銀ノ蓄積作用。

五、患者ノ特異質。

以下各項ニ就テ少シク討究センニ、

一、患者ノ身體ノ狀況。本劑使用ニ際シテ、胃腸ノ狀況ガ殊ニ副作用ニ關係アリトハ創製者ノ警告スル所ナリ。

未ダ發赤ヲ呈シ、眼瞼ニ輕度ノ浮腫ヲ見、眼瞼及眼球結膜ニ充血セリ。檢尿スルニ比重ハ一・〇二〇、尿量ハ稍少シト雖、蛋白、糖ヲ認メズ。筋痛ハ全クナキガ如ク、全身疲勞感著シク、嗜眠狀態ニアリ(神識ハ侵サレズ)。其他臟器ニ異常ナシ。

夕刻ニ至リテ平温トナリ狀況全ク恢復セリ。

七月十二日。今朝初メテ食事ヲナス。檢尿スルニ異常ナク、體溫、脉搏

ハ注射前ノモノニ復ス。

七月十三日。特記スベキコトナシ。以後注射ヲ中止シタルヲ以テ經過ヲ述ベズ。

ヨリテ當初ヨリ此點ニ留意シ、硫苦ヲ投ジテ毎日軟便一二回ノ上圍ヲ見ル様處置セリ。患者ハ又輕度ノ胃「アトニ」症狀ノ外胃腸ニ異常ヲ認メズ。脚氣モ殆ド治癒ニ赴ケリ、脚氣ニヨルトセバ當初ヨリ同様ノ症狀ヲ見ルベキナリ。

ヨリテ此項ハ否定ス。

二、製藥乃至包裝上ノ缺陷。コハ輕々ニ論斷スベキ性質ノ問題ニ非ラザレドモ、同一函内ノ他ノ「アンブローレ」ラ他ノ患者ニ使用セシモ、何等ノ副作用ナカリキ。ヨリテ此項モ否定セン。

三、注射ノ方法。予ハ從來本劑ヲ主トシテ靜脈内注射ヲナセリ。創製者ノ指示セル法ハ最初二三回ハ靜脈内ニ、爾後ハ臀筋内ニ注射スル混合法ナリ。予ハ最後マデ專ラ靜脈内注射ノミニ依レリ。何トナラバ一、筋肉内注射ニ於テハ局部ニ疼痛アリ且腰部ヲ露出スルガ妙齡ノ婦女ハ頻回ノ注射ヲ忌ム傾向アリ。(二)、吸取ノ上ニ遲速アリ且臀筋内ニ蓄積スル傾向アルヤモ計リ難シ。(三)、操作ノ上ニ於テ殆ド難易ナシ。

而シテ此專ラ靜脈内注射ニヨル可否ハ少數ナル實驗例ヲ以テ斷定スルハ失當ナレドモ、予ハ本例以外ニ於テハ未ダ何等ノ障礙ニモ遭遇セザルノミナラズ患者ハ寧ロ歡ビテ治療ヲ持續スル傾アリ。蓋シ筋肉内注射ニ際シテノ局所疼痛ハ患者ニ取リテハ一大苦惱タルハ疑ヲ容レズ。

岡山ニ於テ鈴木忠景氏亦專ラ靜脈内注射ヲ連用シテ何等副作用ナキヲ認メタリ、サレドモ其長時連續ノ利害ハ動物試験ニヨリテ後報スベキヲ約セリ。(治療藥報第一四二號)

ヨリテ責任ヲ本項ニ嫁スルハ根柢薄弱ナリ。

四、水銀ノ蓄積作用。本例ヲ以テ蓄積作用ト見ルハ當ラズ。何トナラバ本劑使用例ヲ見ルニ、用量、靜脈内注射ノ場合。

一四三—五立方糶ヲ五日ノ間歇ヲ以テ肘窩ノ正中靜脈内ニ二回乃至三回反覆注射ス。爾後ハ隔日〇・五宛ヲ臀

田邊—新水銀驅蝕劑「イマミコール」ノ副作用ニ就テ

八八八

筋肉ニ注入ス。

而シテ本例ト右規定ニヨル注射量ヲ對照スルニ、其經過中ニ於テ多少ノ消長ハアルモ、中毒症狀ヲ呈セル時期迄ノ注射全量ハ一三對一六・五立方糎ニシテ、寧ニ・五立方糎ノ少量ヲ示シ、創製者ノ收支計算ニ於テ過誤ナクンバ、本例ニ於テハ注射量過多ニシテ、收支ノ差蓄積セリトハ首肯スル能ハズ。

五、患者特異質。本劑ニ對スル特異質ニ二種アルコトハ前述ノ如シ。本例ハ狹義ノ特異質ニハ非ラザルコトハ明カナリ。創製者ノ言ヲ藉レバ所謂一時的特異質ヲ以テ説明スレバ最モ容易ニ解釋ヲ下シ得。

五、結論

一、「イマミコール」ノ一新副作用トシテ、全身筋肉系統ニ劇痛ヲ來スコトアリ。注射後約三時間ニシテ始マリ、痛ハ筋層深キ部ニ最モ著明ナリ數時間ハ同一強度ヲ持續シ鎮痛藥ヲ投與スルコトナクシテ漸次輕快シ、約十時間ニシテ全ク止ム。

疼痛ノ本性ハ不明ナリ。此際發熱、皮疹、眼險腫ヲ伴ヒ、蛋白尿ナシ。

二、本例ニ述ベタル副作用ヲ患者ノ所謂一時的特異質ヲ以テ説明セントス。サリ乍ラ、此一時的特異質ナル語ハ穩當ナルモノナリヤ、他ニ重要ナル事實ノ伏在セルニ非ラズヤ。姑ク記シテ先輩諸彦ノ示教ヲ乞ハントス。

三、「イマミコール」ノ注射ニ際シテ筋肉内注射ニハ殆ト毎常局所疼痛ヲ訴フ。寧ロ靜脈内注射ヲ專用スルニ如カズ。

● 正誤

前號(大正七年八月三十一日發行)中田理吉君「息肉様増殖チナセル子宮體部痛ノ一例ニ就テ」中
 前號(大正七年八月三十一日發行)橋川定君「肺「サスマ」」ノ研究拾遺」中左ノ通リ正誤ス。

七七頁

五行

誤

正

七七頁

六行

即チ開始後

吸取

即チ試驗開始後

(完)